

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和5年11月

うるわし通信100号記念

当会は、今年で設立13年目を迎え機関誌の「うるわし通信」もこの度100号を迎えることとなりました。ここに到るまで事業にご尽力頂いた方々、ご理解とご支援を頂いた方々のおかげと厚く御礼申し上げます。あらゆる立場を越えて、桜井を住みたいまち、住みよいまちにしようという只その一点において結集し、会の名称も“・大和しうるわし”の句から採りました。そして産廃問題をはじめ、うるわしの原風景を守ろうと呼びかけた景観シンポジウム、記紀万葉プロジェクトでの万葉歌碑原書展などさまざまな事業を展開し、また提案・連携・支援・発信などを行って来ました。100号に当たり、その取り組みの一部を通信の表紙を採録してご紹介しております。

今後も複雑化する時代の社会課題解決のためには民の力がますます重要になって参ります。民の力を掘り起こし、協力しあい、うるわしの桜井をともに共創して行く活動が継続出来ますよう引き続きご協力ご支援お願い申し上げます。

一社）うるわしの桜井をつくる会

理事長 堀井良殷

うるわしの桜井をつくる会
第2回定時総会
平成23年6月12日午後1時
桜井市まほろばセンター
多目的ホール

うるわしの桜井をつくる会 第2回定時総会

6月12日（土）に桜井市まほろばセンター多目的ホールにて第2回定時総会を開催しました。高瀬安男事務局長の司会による開会宣言の後、堀井良殷会長が「総会に参加頂きまして本当にありがとうございます。発足して一年「桜井市民が立ち上がり動き出した」という声が寄せられるようになりました。古代国家が始まったこの地を魅力的な活力のある美しい町にするため力を合わせていきましょう。ご支援とご協力をお願いします」と開会挨拶。

続いて議長に浅川肇常任理事を選出し、議案として平成22年度事業報告、決算報告、決算監査報告、平成23年度事業計画案、予算案の提案がそれぞれ行われました。平成23年度事業計画案の提案では、昨年度に引き続き、観光資源活用と研究と桜井駅北口広場の活用と、桜井市の景観保存活動への取り組みが承認され、新たに産業廃棄物処分場問題及び日本の森林・林業問題への取り組みが提案され承認されるなど、全ての議案が承認され、総会議事を終了しました。



公開シンポジウム「三輪山の風景街道をつくる」

定時総会の後、ときわぎジョイフルハーモニーによる桜井市歌の合唱があり、引き続き公開シンポジウム「三輪山の風景街道をつくる」が開催され、約150人の参加者が熱心に耳を傾けた。三輪山の風姿は、桜井の存在をそのままアピールする桜井の象徴であるが、近年、中和幹線の開通に伴い沿線の建造物・広告・看板などにより

その景観が著しく阻害されており、今後の商業施設の誘致開発にあたっては、具体的な景観保存、環境への配慮が緊急の課題であるとして、熱い討論がおこなわれた。パネリストの磯 三男・柴嶋 まゆみ・宗田 好史・中尾 晃史・中塚 一の五氏は堀井良殷会長の司会で、それぞれ風景街道設定の重要性を強調した。（4ページに詳細記事）

産廃特集

卒産廃処分場

桜井市の産廃処分場は多くの否定的課題を残しつつ、どうやら最終段階を迎えたようである。産廃部会では検討の結果、すでに許容量を超えつつあると判断。許可権限を持つ県に、厳正な検査を求めて討議したいと考えている。埋立容量、埋立高度は業者からの年一回の申告に基いているが、これが果たして公正なデータといえるのか。第三者評価機関の設置を嫌うのは、わが国行政全体に及ぶ悪弊であるが、公正な判断を得る手立てを求めて行きたい。勿論、許容量を超えれば、その時点で処分場としての機能は即時停止しなければならない。更に県の許可条項、市の環境保全協定条項への違反はないか、実態の把握を要求する。これが今回の最重要なテーマである。ところが現在もう一つ問題が起こりつつある。それは県外からの産廃物を受入れて欲しいということである。

わたしたちはこれを全面的に拒否する。桜井には古代からの歴史文化をいまに伝えるべき都市としての使命がある。バブル期に産業資本の負債である産業廃棄物をあえて引受けたことを、たとえ勇気として賞するとしても、桜井の永い歴史時間からみれば、一時期の錯誤というほかはない。わたしたちは陥ってしまった20年の錯誤にピリオドを打ちたいのである。また、これが東北大震災の瓦礫処理の現実的提案であるように見せかけた処分場の拡大延長策であるならば、更に大きな危険を招来することになる。わたしたちは被災者とその地域の日も早い復興を祈念するものである。しかし、誘発された原発事故による放射性物質の混入を完全に防ぐ方法は見当たらず、安易な同情は危険な放射性物質の拡散に手を貸すこととなる。重ねていう。廃棄物処分場はもう終らねばならない。わたしたちは悪臭の無いまちを取り戻したいのだ。



これでいいのか歴史街道



桜井駅北口から「歴史街道・山の辺の道」という案内板が歩道に規則的に埋め込まれている。これに従って北へ400m、三つ目の信号を渡れば「ヤマト」だがここで右折の案内板があり、東へ100m向かう。駅から7～8分のところだ。店舗の軒下のような感じのところへ出る。一寸とまどろむのだが、これはまだ良い方で、車道を挟む反対側の北側は歩くスペースが全く無い。この状態が少し先にあるJR踏切を越えた向こうまで、全長約100mほど続き、しかも踏切を越えると来た歩道は突然北側についている。まことに歩行者泣かせの道である。

このことは、この道を逆に、つまり「歴史街道・山の辺の道」の帰り道として歩くといっそうはつきりする。踏切と電柱と建造物が障害物として立ちちはだかっているのだ。観察する

と、朝は小学生児童が登校に利用する。ボランティアの数人が、孫をいたわるような感じで誘導しているが、乗用車もトラックも、肩にふれるように通過して、とても危険だ。昼の前後は「スーパーオークワ」への買い物客が往來する。午後しばらくすると、下校の児童たちが、おそるおそる通過する。この頃から三輪山方面からの帰りの観光客の小グループが、時には数百名の大グループが通る。この間、車両は遺憾なしに歩行者にふれ合わんばかりに通る。

ここは市道大福慈恩寺線・JR野木踏切と称するらしいが市道とは名ばかりの危険道路だ。どうやら市道としての買収について地権者との話し合いが進展してないのだ。現状では明らかにこの一画は児童、観光客を含め、善良な

市民の通行権を妨げている。

市は地域住民390名の署名を受取ったそうだが、「山の辺の道」は全国的に知名度が高く、年間600万人の観光客が訪れる歴史街道だ。それへ通じる市公認の案内道路がこういうことで良いのだろうか？

市は観光都市を目標に掲げているが、観光は何よりも人間にやさしい心、もてなしの心が大切だ。こういう歩行者を苦しめる道を放置しておくのは桜井の恥だ。一日も早い解決を要望したい。



うるわし通信第3号 平成23年9月

文化と観光のまち桜井

桜井市は観光に熱心な都市です。多くの市民が観光をテーマに現実的にそれに取り組まれている姿は感動的です。観光といえば昔は物見遊山が主だったと思いますが、現代は大きく様相が変わり、文化を楽しむということになっているようです。特に桜井市を訪れる観光客は古代文化に憧れ、あらかじめ一定の知識を蓄えた上で、いままる自然風景に古代を重ねられ複合的に文化を楽しんでおられるようです。

こうして、文化と観光とは、とても近親関係がありますが、文化が学者肌の兄とすれば、観光は茶目っ気のある弟というような存在ではないでしょうか。

茶目っ気たっぷりの明るいまち、大勢の人が普段着で来るまち、国籍・思想・宗教を超えて、人間にやさしいまちになることにわたしは大賛成ですが、さて、年の暮れです。鳴物入りで行われた今年の催しについて少し振り返ってみました。



松原神社境内



金屋の仏教伝来之地碑前

うるわし通信第6号 平成23年12月

教育問題に関心を持ちましょう

お隣りの大阪府で橋下氏が独特の「教育条例案」を提議しています。橋下氏は話を盛り上げる事が上手で、その点で人気者のようです。この人が単なる人気者にとどまらず権力者となってしまうために、話がますます大きく広がっています。

この話にどこまでもついて行って、みんなが同じ思想にカブれて良いのだろうか。他府のこととはいえ、いまのうちに予防注射して免疫になった方が良いのでは。と考え「コミュニケーション研究センター」主催

に「うるわしの桜井をつくる会文化部」が共催し1月20日まほろばセンターに於いて『大阪府教育条例案から見える教育改革のすがた』と題して講演会を開催しました。講師は朝日新聞大阪本社社会部編集委員で、この問題について紙上で深く掘り下げた報道を継続的にされている西見誠一氏にお願いしました。

当日の参加者は60名でこの問題の関心の高さがうかがわれました。1時間の講演の後、更に1時間ばかり質疑応

答があり、西見氏退席の後、更に参加者間で討論の時間をもちました。とても中味のあふれる講演でしたし、質問も聞きごたえのある内容で、共催者の立場を超えて参加された皆さんに敬服しました。

今号はこの講演会の特集です。紙面の都合で白熱した会場の様子を充分伝えられないのが本当に残念です。講演会を終った後もずっと、未来をにう子どもたちへ教育はいかにあるべきか、を考える日々です。



大阪府教育基本条例案から見える教育改革のすがた まほろばセンター

うるわし通信第8号 平成24年2月

うるわしい景観こそが経済をうるおす

国道24号線のような、けばけばしい看板、入り乱れる建物、乱立する幟、そんな街道はやがて劣化の道を辿ります。そのような風景は恥ずかしいというのが世界の常識です。それよりも地域の伝統を生かした建物で地元の産品や環境配慮企業で買い物をするほうが安心で良いものがあるというのが今のトレンドです。政府も魅力的な風景こそ、地域の成長資産であるとして景観法という法律をつくりました。最高裁判所は、美しい風景を壊すのは財産権の侵害に当たるという判断を示しています。

桜井市には世界的に見てもかけがえのない美しい風景が随所にあります。特に三輪山は古来、神の山として日本人の心のよりどころであり、そのおだやかな丸みを帯びた山容の遠景は貴重な資産です。その足元の桜井市街地の風景は三輪山にふさわしい風格が必要です。すでに地元企業はそのことをよく理解

されており、建物のデザインや看板表示に特段の配慮をされています。大和にふさわしい黒と白を基調とした壁や看板がその良い例です。

中和幹線が開通し、その沿道に新しい商業施設がこれから出てゆきますが新しく進出する企業にも是非、地元にもふさわしい風格のある建物や看板のデザインを採用して頂きたいと思っています。企業は全国統一ロゴやデザインを採用していますが、時代が変わり、いまや画一的なイメージを押し付けるだけではかえってマイナスです。

むしろ個性のある地域になじんだ商品イメージこそがこ

れからの方向です。中和幹線沿いに大和の伝統をイメージした街区が出来れば、ユニークな魅力ある地区として各地から買い物客が来て、地価も上がるでしょう。環境配慮型企業を誘致しましょう。環境配慮型企業で買い物をしましょう。

この度、上之庄地区に建設中の上新電機は「うるわしの桜井をつくる会」の要望を受け止め、景観条例を先取りして刺激色を抑えたデザインを採用されました。まだ理想には遠いものの一歩前進と言えます。今後も各企業に協力を要請したいと思います。

うるわしの桜井をつくる会
会長 堀井良段



「これで良いの？三輪山の風景」

うるわし通信第16号 平成24年10月

追悼 芝房治さん逝く



芝房治氏（うるわしの桜井をつくる会 常任理事）が1月19日逝去された。享年90歳。髯（かくしゃく）たる生前の姿を知るものにとって、余りにも早い不慮の旅立ちであった。ここに縁の深い方々に人間芝房治氏を語ってもらい、追悼の言葉にしたい。（あいうえお順）

郷土「桜井」を何より愛した人

浅川 肇

芝さんから直接、聞いた話である。芝さんは京都の中学校で学んだが、当時、軍国主義を進める政府は全国の中学校に軍事教練を課し、将校級の軍人を各校に配属した。ある日、その軍人が「京都の中学生は学問が好きなのだが、体育を軽んじているのが眼鏡をかけている生徒が多い。それではお国の役に立たない」と説教した。

少年芝房治は立ち上がって質問した「眼鏡をかけているのが悪いとすれば、天皇陛下もおかけになっていますが……」途端に配属将校から拳骨の嵐。芝さんの歯は全部折れられ、顔面は見ると無惨に紫色に腫れあがった。

芝さんは戦後最初の共産党書記長徳田球一の演説に共鳴して、即座に入党したというが、反軍・反権力の萌芽は少年時代からのもので、決して一夜づけのものではないのだ。

わたしは「桜井の明日を語る会」のメンバーになって、交友を密にしたが、それ以前は深いつながりはない。しかし、上記の逸話が示すように、元来エピソードの多い人ではないかと思う。

酒を好み「やると思えばどこまでやるさ」と歌って宴席を盛り上げ、興に乗ると豪歌・軍歌を唱う、典型的な戦前派。

政治家はみんな演説が好きだが、芝さんも人前でしゃべるのが好きだった。しかし、戦後まだ豪傑の多かった桜井で、若僧として売り出した芝さんには、はらはらするほど勇気のある発言が多かったのではなかろうか。また、それに期待した市民も多かったろう。

芝さんはわたしのような北九州のコスモポリタン都市門司の生れには、異常としか思えないほど郷土愛の強い人。思想的には本質的に相反する保田與重郎を熱狂的に持ち上げる人でもあった。芝さんには思想より郷土愛の方が大切なものだった。

多才な人で短歌・俳句も作ったが、漢文調の文章も忘れ難い。総じていえば、現在、失われてしまった文人肌の人だった。しかし、芝さんにいわせれば、やはり政治家として終始したと自負されるのではあるまいか。市政について、国政について、歯に衣を着せぬ物言いで、政治家としての見識を示された。

19日の夕「うるわしの桜井をつくる会」の新春交流会の中間報告と、ほかに二・三のことを話した。少し話しが長くなったので、また明日と電話をおいたが、それが最後になってしまった。もう少し、いやもっと語り合いたい人であった。

臨時特集号 追悼 芝房治さん逝く 平成25年4月

桜井記紀万葉歌碑原書展 ～昭和の文人が愛した神なびの郷～

日本最古の道「山の辺の道」や「伊勢街道」、「磐余の道」などの路傍にひっそりと佇んでいる歌碑をご存知でしょうか。これらは桜井市出身の文芸評論家・保田與重郎氏の呼びかけで、協力いただいたノーベル賞受賞者の川端康成氏をはじめ、芸術家、文学者、学者等日本を代表する文人墨客の揮毫による記紀万葉の歌碑達です。昭和47年から桜井市の池田元市長をはじめ、多くの方々のご尽力、ご協力を得て、現在桜井市内には60数基が建立されています。

今回、桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会と奈良21世紀フォーラムが共同で、桜井記紀万葉歌碑原書展実行委員会を立ち上げ、今まで外部ではほとんど公開されたことがない揮毫文の原書を展示することになりました。展示は11月26日から30日まで、あべのハルカス近鉄百貨店アート館で開催されます。うるわしの桜井をつくる会も桜井市、桜井市観光協会、奈良21世紀フォーラムで構成された事務局に入り、展覧会の成功をめざし頑張っています。9月18日には松井市長による記者発表も開催され、新聞各社の取材を受け大きな反響を呼びました。

今回一番苦労したことは展示と図録作成にあたり、著作権をクリアーにするため、揮毫者の許諾を得ることでした。揮毫をいただいた方々のうち千玄室氏を除き、ほとんど鬼籍に入っておられるので、それぞれのご家族を探し出し、了解をえる作業が延々と続きました。今回の展示ではそれぞれの揮毫文の原書はデジタル処理し、著作権もクリアーできましたので、今後の活用もスムーズに進めることが可能となりました。

会場に足を運んでいただいた方々には、ぜひ現地を訪ねていただき、歌碑に書き込まれた思いに触れ、ふるさと桜井の原風景の中に佇む歌碑達を確かめていただきたいと思います。原書展では市民の皆様方からも事業へのご理解を得、過分の寄付をいただきました。できるだけ多くの方々にご来場いただくことをめざし、PR活動にも取り組んでいます。皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。

（うるわしの桜井をつくる会 事務局 高瀬安男）

桜井記紀万葉歌碑原書展特別優待券 ～昭和の文人が愛した神なびの郷～

20%割引(1枚で2名様までご利用できます)

期 間 平成26年11月26日(水)～30日(日)各日午前10時～午後8時

※最終日は午後5時閉館 入館は各日閉館の1時間前まで

会 場 あべのハルカス近鉄本店 ウイング館(隣近鉄アート館)

料 金 400円(本券を入場券売り場でご提示ください)

発 券 一般社団法人 うるわしの桜井をつくる会



山の辺の道と歌碑 撮影: 木村昭彦

うるわし通信第40号 平成26年10月

産廃の埋め立て操業は終了します

市内の高田産業廃棄物最終処分場が12月に処分量も高さも、制限の限界に達し操業を終了することとなりました。平成2年に始まり、足がけ24年間にわたって、地元住民を困惑の渦にまき込んできた「サンバイ」の操業は、ひとまず失くさることになったのです。

本会はこの操業に反対し、中止を訴え続けた「桜井の環境をまもる会」が母体の一つです。この運動に邁進し、終始献身的に推進された野村味生さんは、現在、病篤く。芝房治さんは、既にこの世の人ではありません。お二人の後を引き継ぐことになった本会ですが、はたして如何ほどの貢献ができたか、顧みて本当に恥ずかしく思っています。

「桜井の環境をまもる会」と、それを引き継いだ本会の産廃部会は、まず環境破壊について市民に訴えました。歴史と景観は桜井市の有形無形の宝の筈です。反対の声にもかかわらず景観は目に見えて侵されました。市内から望見し得る周辺の山地は、古来「小倉山」と呼ばれ、記紀万葉に登場する地帯です。

観光的には、聖林寺は「国宝十一面観音像」を祀る、市内屈指の観光名所ですが、そこに「サンバイ」の悪臭がおし寄せてきても、行政も、観光協会も対抗策を講じ得ませんでした。

環境破壊は目に見える問題だけをいっているのではありません。汚染される水源・地下水脈が農業や食文化へ及ぼす影響、住民への健康被害が懸念されました。市民運動としては操業中止を求める1万人の署名を集め、市に提出しましたが、市はこれに応えることはありませんでした。市民の声を無視した市の姿勢は改めて問いただされねばなりません。

そこで、もっぱら監督指導権を持つ県行政に要求を貫くという形になりました。その中では違反操業の摘発と、それによる操業中止命令が期待されました。これは許可以外の物を埋めているのではないかと、ボーリング調査を求めましたが、県はなんらかの手を打つ気配は全くありませんでした。

認可事業は成立すれば、行政は業者の申告を無批判に受け入れるということが判りました。これらは住民が肌で学びとったことでした。健康調査は為され、悪臭は確認されましたが、直接の因果関係は不明との結果でした。わたしたちは、将来にわたって人体の蒙る悪影響を危惧しているのです。

行政と住民・産業と生活、この相反する観点と無関心の層の厚さが判ったことだけが運動の成果だったのでしょうか。反面教師を得たことが成果なのでしょうか、とりあえず報告しておきます。

文責：浅川 肇



小倉山にあらわれた産廃処分場

うるわし通信第28号 平成25年10月

桜井記紀万葉歌碑原書展を終えて

桜井市の至宝・記紀万葉歌碑の揮毫を一堂に集めた「桜井記紀万葉歌碑原書展」は11月26日から30日まで、あべのハルカス近鉄本店・近鉄アート館で開催されました。

開会に先立ち、12月25日(火)には各種団体の方々をお招きして内覧会を開きました。

堀井良殷 実行委員長の開会宣言に続き、桜井市のマスコット「牟弥呼ちゃん」のエスコートにより、桜井市長 松井正剛、奈良県副知事 前田努、桜井市議会議長 高谷二三男、実行委員長 堀井良殷、近鉄百貨店社長 高松啓二の各氏が登場、テープカットで開幕しました。期間中に地元桜井市をはじめ、奈良、大阪、京都、兵庫、東京等全国から1200名以上の方々の入場があり、関心の深さがうかがえました。

会場では「こんな素晴らしい原書があるとは知らなかった。もっと多くの人たちに見ていただきたい」、「歌の解説や写真も素晴らしい。歌碑の設置場所を明記してほしい」、「次回は地元の桜井では是非開催してほしい」、「著名な揮毫者と作品のイメージの差が興味深かった」、「素晴らしい展覧会、今から友人に電話で呼びかけたい」、「東京から来たが、もっと関東地方にもPRしてほしい」、「掛替えのない至宝であるので、一部観の目立つものは表装をやり直してほしい」等の声が聞かれました。今後のイベント展開で検討していきたいと思います。

会場では万葉講演会も連日開催し、80名の定員を超える参加者もあり大盛況でした。

また、会場の一角で、新学社の協力を得て上映した「自然(カミナガラ)に生きる保田與重郎の日本」にも関心を持った多くの人たちに閉館間際まで、熱心に視聴していただきました。

展覧会の2日後、この作品に特別出演した菅原文太氏の訃報は社会を揺るがせました。彼は俳優としての活躍もさることながら、保田與重郎の説く「日本の根本は米作りによる祭りの生活」に心酔し、晩年は自分でも山梨の一角に土地を取得し、農業や化学肥料を使わずに米や野菜を栽培し、環境保全にも深い関心を持っていたことを知りました。

原書展に華を添えていただいた銀幕の巨星に哀悼の意を表します(合掌)

最後に準備の段階から「うるわしの桜井をつくる会」は実行委員会事務局スタッフとして、展覧会の準備に取り組んできました。会員の皆様方のご協力により成功裡に終了することができました。心より感謝いたします。



いよいよテープカットです！

うるわしの桜をつくる会事務局 高瀬 安男

うるわし通信第42号 平成26年12月

桜井大火から60年の夏です

今年で戦後70年ですが、60年前の昭和30年7月16日午後1時50分頃、桜井で未曾有の大火災が発生しました。大字谷(谷新町付近)から出火し、おりからの台風8号の強風にあおられ、火はたちまち付近一帯の木材工場や民家に燃え広がり、ようやく午後7時頃に鎮火しました。焼失面積25,000坪(甲子園球場一つ分)、罹災世帯207戸、罹災者861人、損害額約10億円にのぼる大火災でした。

当時の話を聞くと、連日の猛暑による水不足で十分な消火活動が行えず、桜井小学校のプール(現在の大和信用金庫別館付近)の水も使い果たし、国鉄による水タンク車が奈良から到着してようやく鎮火したそうです。

この未曾有の災害を教訓として、昭和32年の上水敷設と同時に桜井地区に消火栓130基が設置され、昭和36年7月には、消防職員6名、ポンプ車1台をもって常設消防本部を設置し、昭和38年8月からは救急業務が開始されました。

仁王堂小西橋の東側に「愛宕さん」があります、「桜井大火」を二度と繰り返さないために火伏せ(防火)の神様が祀られていて、8月23・24日にお祭りが行われています。

昨年5月には、桜井市本町通りで、住宅や空き店舗など10数棟が焼ける火災が発生しました。災害は忘れた頃にやってきます、改めて火災の恐ろしさを再認識する、夏です。

うるわしの桜井をつくる会常任理事 ひがし 俊克



うるわし通信第50号 平成27年8月

「なら文化祭2017」がやって来た！さあ桜井でも始めよう

「国民文化祭」と「全国障害者芸術・文化祭」が全国初の一体開催で、本年奈良県内で9月1日から11月30日まで実施されます。「障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」を踏まえた文化・芸術の祭典を具体化しようとする目的からです。

桜井もこの機会を活かして企画を具体化し今後の継続的な文化活性化に繋げていく必要があります。うるわしの桜井をつくる会は、市民が自発的に立ち上がって桜井を良くしたい、活力ある桜井にしていきたい、ただその一点においてあらゆる立場を超え横断的に手をつないで結成されたもので、おおくの市民が既に活動を立ち上げておられるその志をつなぎ、点を線に、線を面にする活動がこの会の目的です。文化面においても「なら文化祭」を契機に、文化活動に取り組む諸組織の連携を推進したいと考えています。

今回のテーマの1つである、「日本文化の源流を探る」や「文化の今を楽しむ」については、「桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会」活動の展開を踏まえて、芸能発祥の地・桜井としての「能楽」や「鼓の里」の各種イベントが予定されています。

今回のマスコットキャラクターは、せんとくんが和服姿で小鼓を持っている姿で、まさに鼓の里を象徴する姿です。「鼓の里」である桜井市でもこの機会に市民も能楽に親しみ、自らも文化的創造活動に参加するよう機運を高めていきたいと思います。

文化は単なる遊びではなく生きる活力の源泉です。被災地でも音楽演奏を聴いて、人びとが勇気をもったと元気づけられる例を多く聞きます。桜井でも、市民が文化の交流と創造に積極的に参加し、地域が元気になるよう組織的、継続的に民も行政もともに取り組んでいかなければなりません。

国民体育祭の場合では、数年前から選手育成や、地域との交流のための論議や具体的取組みがされていたと思います。しかし、今回の「なら文化祭2017」への県民・市民の関心はそれほど高くありません、盛り上がりもまだまだ乏しいように感じます。

また「障害のある人となない人が共に」と呼びかけはされていますが、具体的な内容はまだこれからのようです。文化庁が呼びかけている2020年オリンピック・パラリンピック文化プログラムでも障害者との共生を入れることが必須条件になっています。ユニバーサルデザインを地域に定着させる機会でもあります。勿論「地域の伝統文化を活用した観光振興・地域活性化事業」もさらに強力に展開するチャンスです。9月まであと6か月となりました。皆様、今すぐ何か自分で出来る文化活動を始めようではありませんか。

うるわしの桜井をつくる会 会長 堀井 良股

*鼓の里：能楽を演じるのに不可欠な楽器である「鼓」を製作する名工が、かつて多武峰に多く住んでおり、「多武峰」「折居」「おとわ」などと呼ばれる名器が伝わる。談山神社は大和(猿)楽4座が新作を競演した所でした。

うるわし通信第60号 平成29年3月

魅力ある農を目ざして

高台から葛城連山・生駒丘陵・大和平野を大きく見はるかす「オーベルジュ・ド・ぶれざんす桜井」(以下オーベルジュと略します)は開店以来、大変な盛況のようです。素晴らしい景観を目にしなが、本格的フランス料理を口にするのですから、今後ますます人気を博すでしょう。観光の大きな目玉として期待する声は高まるばかりです。「オーベルジュ」の招致は確かにヒットです。

ところで、この地域、安倍6区(高家・高田・山田・生田・橋本・池の内)は、県が地味の肥沃なことに注目し、農業振興の主要な基地として、早くから期待している地域であることも、また忘れてはならないです。

人間は食糧がなければ生きて行けません。農こそすべての基本。基幹産業中の基幹なのです。「なら食と農の魅力創造国際大学校」と名称を変えて農業大学校を再開校したのも、この大目的に沿ってのことです。

県はこの地域、約20ヘクタールの土地を農業振興に向けるよう企画しています。若い人が農業から去って行きますが、逆に農業に憧れ、農業に挑戦したい若者もいるのです。

そうした若者には、この地域の農地を提供することも考えられています。

時代は変わりました。これからの農業はいかにあるべきか。いままでは土地を耕し、収穫することで終わっていましたが、今後は生産(第一次)から加工・製造(第二次)そして流通・販売(第三次)まで一貫することこそ農の魅力はあるのだと気づいたのです。「魅力ある農業」を目ざそう。これがこの地域の掲げる大理想です。決して観光だけに満足しているわけではないのです。

オーベルジュの仕事によって消費者の好みも、手にとるようにわかる筈です。これがたちどころに生産の品目・品質の参考になります。

この際、市民も農に目を向けて頂きたいのです。観光的には、例えば外国人観光客が希望すれば、短時間の農業体験などの企画も一案となっています。

市民の皆さん。オーベルジュもさることながら、もっと大きな視野で、この地域の発展を見守り、支援して下され。



浅川 肇

オーベルジュ・ド・ぶれざんす 桜井(当館ホームページより)

うるわし通信第52号 平成27年10月

《文化を通じたまちづくりを進めよう》

国文祭(第32回国民文化祭なら2017)・陣文祭(第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会)が、全国で初めての合同開催として、9月1日より県内各地域で開催されます。期間は11月末迄で、9月9日には『芸能発祥の地 桜井』(能楽に関するシンポジウムと宝生流による能楽公演)等が市民会館で開催されます。

この公演には、桜井市外山が発祥の地である宝生流家元の宝生和英氏が、能【三輪】を上演されます(有料 当日購入可能)。また、午後1時から行われるシンポジウム「日本芸能発祥の源流を辿る」では、この度重要無形文化財の保持者(人間国宝)に認定された大倉源次郎氏が参加され、「三輪」の小鼓も担当されます。狂言は、茂山千作氏ほか出演の「因幡堂」です。

☆☆障害のある人もない人も ともに☆☆

併せて現在、陣文祭の趣旨に沿って、「文化を考える桜井市民の会」と「うるわしの桜井をつくる会」等を軸に、「卑弥呼の里芸術祭 実行委員会」を結成して、障害者と関係する市内のグループと「たんぼぼの家」との共同の音楽祭開催に向けた取組みを進めております。

「たんぼぼの家」は桜井で誕生して、今や全国規模で、そして世界に向けて障害者の自立した取り組みとして「わたぼうしコンサート」を開催しています。「たんぼぼの家」との合同の音楽活動を、障害がある人もない人も共に、桜井の地において開催していくことの意義は、大きいと考えます。

卑弥呼の里芸術祭 ～障害のある人もない人も ともに in SAKURAI～

日 時 平成29年11月25日(土) 14時00分～16時30分

場 所 桜井市立図書館 研修室1

内 容 コンサート

第1部 ひびき(和太鼓演奏)：チェリーフロッグス(コーラス)

庵前通世(ソプラノ)：丸谷千夏(マリンバ)

中村真紀子(ピアノ)

第2部 わたぼうしコンサート(たんぼぼの家)

国民文化祭桜井市実行委員会をはじめ、多くの諸団体の後援・協力・協賛を頂き現在準備を進めています。この取組みを今回1度限りのものとするのではなく、継続的な取組みとして障害のある人もない人も ともに生活する地域文化を創り出すようになればと考えています。ご支援・ご協力をお願いします。

(編集 橋本克弘)



うるわし通信第63号 平成29年9月

卑弥呼の里 芸術祭に参画を！！

11月25日（土）に桜井市立図書館で、『卑弥呼の里 芸術祭』が開催されます。

本年の奈良県で開催中の国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭の一体開催の趣旨を、桜井市でより具体化する取組みとして、うるわしの桜井をつくる会は実行委員会に加盟しています。重度の脳性まひを持って昭和36年に桜井市で生まれた故山田康文さん（やっちゃん）の『お母さん ぼくが生まれて ごめんない』の作詩を契機に、このような思いを二度とさせない世の中を創り出そうとして、「たんぼの家」活動が始まり広がっていきました。そして、障害を持つ人々が作った詩にメロディーを付けて始まった音楽祭が「わたぼうしコンサート」として、今日に受け継がれてきています。

桜井は、まさにその原点の地であると言えます。今回の一体開催を受けて、障害がある人もない人も共に地域づくりを進めることを目的に、『卑弥呼の里 芸術祭』が実施されます。



芸術祭には、やっちゃんの詩を聞き取りされた向野幾世先生に参加頂き、詩の朗読をしていただくことが予定されています。『卑弥呼の里 芸術祭』の実施に向けて多くの協賛団体や、後援団体、協力団体の支援協力の下に実施されますが、初めての事業として準備や開催上の不十分点多々あると思われるが、本会も実行委員会の構成団体として取組んでおり、会員の皆様の当日参加や運営協力に向けた参画をお願いしたいと思います。

スポーツを通じた平和な世界、人々の生きがいや連帯づくりにオリンピック・パラリンピックがあるように、障害の有無にとらわれない文化や芸術を通じた新たな取組みが実現できるように『卑弥呼の里 芸術祭』に期待していききたいと思います。

～障害のあるひとない人も ともに IN SAKURA！～

日 時 平成29年11月25日（土曜日） 13時30分受付・開場14時開演 参加費無料

場 所 桜井市立図書館

第1部 ひびき（和太鼓演奏）：チェリーフロッグス（コーラス）

庵前通世（ソプラノ）：丸谷千夏（マリンバ）：中村真紀子（ピアノ）

第2部 わたぼうしコンサート（たんぼの家）

なお、桜井駅北口～図書館を結ぶ、無料送迎バスが下記の通り運行されます。

桜井駅北口 発 12:30 13:00 13:30

（終了後）図書館 発 16:50 17:20

（編集 楠木克弘）

うるわし通信第64号 平成29年11月

今年は逆転の発想を！！

平成30年を迎え、会員各位の本年のご健勝をお祈り申し上げます。

さて、あと16か月で平成時代が終わり新しい時代が始まります。元号が変わるとこれまで不思議に大変動が起こってきました。明治維新は勿論、大正初期には第一次世界大戦、昭和初期には世界大恐慌、平成に入るとバブル崩壊で苦しいデフレの時代が始まりました。

現在も耳をすませば時代の変動の足音が潮鳴りのように響いてきます。

まず予想をはるかに上回るスピードでAIとIoTの波が押し寄せ経済も社会も暮らしも劇的に大きく変わっていくでしょう。

経済も地球に負担をかける産業が衰退し、地球課題解決型企業に投資が向かっています。中国はいち早く自動車のEVシフトを宣言しました。



去年暮にSDGs プラットホーム（sustainable development goals）が日本全国で結成されました。国連決議による持続可能社会のための17の目標に向かって活動しようというもので、裏を返せばここに大きなビジネスチャンスが広がるといことです。時代の波に乗ってこのチャンスを生かしていかなければなりません。

しかもビッグビジネスだけでなく、スモールビジネスにも好機があります。人口減少、過疎化、高齢化もマイナス面のみで捉えるのではなく、ピンチをチャンスと捉え、うるわしの桜井をつくる会 会長 堀井良股スに変え、新しいビジネスに繋げる可能性が大いにあるのです。20世紀型思考を新時代思考に切り替えましょう。

うるわしの桜井をつくる会は各位のご協力とご尽力により、昨年は国民文化祭参加や「障害のある人もない人も共に」生きる芸術祭、次世代育成、歴史研究などに積極的に取り組んで頂きました。

これから桜井市でも県との連携により、大神神社、桜井駅周辺、大福地域、長谷寺、巻向などの活性化計画が進展していきます。これらを契機に新しい発想で民からの「人口減少のピンチをチャンスに変える」逆転の発想と知恵を出して考えていこうではありませんか。

うるわしの桜井をつくる会 会長 堀井良股

うるわし通信第65号 平成30年1月

地域防災力を高めよう

ここ数年、全国的に地震や台風・大雨での大規模災害が多発しています。地球温暖化による影響、急速な都市開発によって危険な山際への住宅開発、想定外の大雨による河川の氾濫など、状況はさまざまですが、生命が失われる事態となっています。

桜井でも昨年の台風で、がけ崩れや浸水などの被害も出ている状況で、市内の纏向川・初瀬川・栗原川・寺川・米川など、山から平地へと急速に下降する河川が多く、山に降った雨は水量が急に増えて下流に流れてくる状況となっています。



台風で、えぐられてしまった寺川の堤

今後、台風シーズンを迎え、地域の防災力を高めていくことが、一層重要となっており、市内の各自治会単位に「自主防災会」が結成されて、日頃の様々な取組みがおこなわれている状況です。

特に、最近では行政からの「避難準備情報」「避難勧告」などがメールで発信されてくることも多く、地域の一人暮らし高齢者（独居老人）、高齢者夫婦、障がい者の方が居られる家庭など、地域でのサポートをどのようにおこなっていくかが、課題となってきています。マスコミなどでは、避難情報が送られてきても、避難所に行った人の割合は限られていたことが、報道されていますがその背景には、今までに大きな被害はなかった、夜に避難勧告が出されて動けなかったことや、避難所までの距離の問題などもあると思われます。

桜井市内では、台風などの自然災害での避難所として小学校体育館が開設されることがありますが、もっと地域に則した身近な場所での避難所の開設の検討も必要ではないでしょうか。もちろん、開設のための人員の配置の問題もありますが、避難所に行こうとしてもなかなか行けない状況も、どのような形で、地域で助け合うかの取組み（日ごろからの諸準備）が必要となってきています。

確かに、奈良県は台風などの大きな被害を受けることも、他府県と比べて少なかった経緯もあり、「今回も大丈夫でよかった」と被災の少ないことを喜んできたのですが、平成23年9月の紀伊半島豪雨災害では、大きな被害が十津川を中心に発生して、7年になります。

昨年の10月の大雨では、市内東部・南部の山間地域では多くの崩落災害が発生しています。＜自助＞・＜共助＞・＜公助＞はよく言われていますが、もう一度身の回りの点検と、家族間での確認・そして地域での緊急避難先等々を確認しておきましょう。

【通信 編集部】

うるわし通信第69号 平成30年9月

美しい桜井を次の世代に引き継ぐ

建築設計事務所を大阪から桜井に移して、ちょうど3年が経ち、事務所2階の窓から見える三輪山はあっという間に草色に輝く新緑から深い緑に変わりました。桜井に引っ越した理由はいくつもありますが、その一つに歴史のある街並みが残る中で暮らしたいということがあります。ですが、引っ越してきた当初はお向かいに2軒あった古民家と近所の3軒の合計5軒がこの3年間に壊されて今風の新しいお家に建て替わり、田畑だった所にはたくさんの家が建ちました。

桜井は美しい山並み、飛鳥時代以前の古墳や遺跡、田畑と山並みと川と瓦葺の家々が作り出す景観、夜の暗さと静けさなど、大阪に近い立地でありながら都会が失ってしまったすべての良さを今も保持しています。そのような良さを是非潰さないで、次の世代に引き継いでいただきたいと思っています。日本全国で時代を経るごとにあちこちの素晴らしい景観が少しずつ無くなっていますので、これから時が経てば経つほど今ある歴史のある街並みや古代を感じる景観は価値を増していくと考えております。他の都市の真似をするのではなく、古代文化の息づく桜井は、今ある古代からの歴史を感じることができる桜井の良さをより磨き上げながら発展してほしいと思います。

このたび、文化財保護法が改正され、文化財保護行政も整ってきました。国土交通省、内閣府も古民家などの歴史的資産を活用した観光まちづくりの方針を打ち出しています。金融・公的支援のほか規制制度の改善を進め、2020年まで全国200地域での取り組みを目指しています。文化財保護法改正では、市町村が「文化財保存活用地域計画」を作成し、国が認定すれば文化財である古民家等の整備や改修、文化遺産の総合的な整備・活用文化庁の支援を受けることができます。

飛鳥時代以前の文化遺産がたくさんあり、美しい景観を保っている三輪山周辺は、日本全国を見てもとても価値のある場所です。まだまだ情報発信されていませんが、広く全国に知られることになれば、移住したい人がたくさん現れるのではないかと考えています。桜井の良さを理解して本当に桜井を好きな人にたくさん移住してきてもらうのが、桜井の安定につながるのではないのでしょうか。そのためには、今ある良さ、価値を壊さないよう大切に、磨き上げることが大切だと思っています。



（石井 智子）

次世代に引き継いでいきたい、美しい山並み

うるわし通信第75号 令和元年9月

反骨の考古学者 森本六爾をめぐる人々

NHK Eテレで「反骨の考古学者ROKUJI」が放映された。弥生研究に生涯をかけた、伝説の考古学者の物語である。86年前に稲作文化を提唱した先駆者で考古学と闘死にしたいとされる男の名は森本六爾（明治36年－昭和11年）。出生は桜井市大泉。アカデミズムに反抗する強烈な人格。真実を求めるせいぜい執念。埋もれていた樺原考古学研究所付属博物館にある森本の野帳ノートが調査され、新事実が続々と浮かび上がっている。大胆で創造的な弥生研究を成し遂げた原動力とは何だったのか、共に闘ったお茶女高師卒業の秀才女流考古学者、妻・ミツギの存在にも注目。32歳で亡くなった波乱の生涯にドキュメンタリーとドラマで迫っている。

再現ドラマでは、森本六爾をハライチ岩井勇気、妻を伊藤沙莉が演じ、岩井勇気は雰囲気と顔立ちと体格が似ており、今まで弟のアニメ「となりのトトロ」のお父さんのモデルと言われている藤森栄二による評価や松本清張の短編小説『断碑』の内容より具体的な表現で、初めての方にも森本のすべてがわかりやすく表現されていた。今年亡くなった樺原の菅谷文則所長が見たら感動されたであろう。詳細は番組を見ていただくこととして、本稿では森本のバリ留学について述べてみたい。

・バリでの森本の交友

当時の学会の風潮に絶望して落をつけるために渡欧したという説もあるが、妻ミツギの師匠でもある白鳥庫吉博士の2人の子息はすでにバリに留学しており、当時の考古学会を主導していた日露戦争の英雄、大 山 巖大将の子息である

大 山 柏公爵は『史前学雑誌』でドイツやフランス考古学を

特集しており、親友の中谷治宇二郎もバリにいたので留学するのはごく自然な流れであった。当時の渡欧は官費が富裕層しか行けない時代であったのに、夢を実現するため妻のミツギが費用を工面したところは夫婦愛の素晴らしいところである。

昭和6年4月、満洲事変直前のきな臭い風潮の中、下関から釜山にわたり、朝鮮半島、中国大陆、シベリア鉄道を経由してモスクワ・ワルシャワを通過し20日間かけてバリに到着する。 当会理事 船谷 晴夫

うるわし通信第76号 平成元年11月



森本六爾と妻ミツギ

チャレンジ精神と継続で、頑張っておられます

林干鶴子さんは、うるわしの桜井をつくる会の創設期からの主要メンバーで、現在は理事を務めておられます。総会や新春宴会などには必ず出席され、桜井商工会でも永らく婦人部長として貢献されておりました。今回紹介する【団子店「卑弥呼」】の新聞記事は、今年の9月20日に毎日新聞奈良版に、そして翌日に全国版に掲載されました。その後1か月たち10月16日の産経新聞全国版にさらに詳細な記事が出ました。高齢者と感じさせないくらい頑張っていることで皆さまが応援したくなると考えたことと表れたいと思います。

KFCのカーネルサンダースは65歳で起業しましたが、なんと林干鶴子さんは82歳で起業されております。幾多の苦労の内容は記事に譲りますが、働く場所を自分たちで作り、それを続けていかれるというチャレンジ精神はやはり素晴らしいことです。会員の皆さまも桜井駅を利用されたら団子の甘い香りに誘われて、お店に立ち寄られたらいかがでしょうか。



林干鶴子さん

(船谷 晴夫)

■ 93歳が店長、最年少70歳の団子店「卑弥呼」

店長は93歳、店のスタッフのほとんどが70～80代という元気なお年寄りが働く団子店がある。奈良県桜井市の「まほろばの里 卑弥呼（ひみこ）。同市には邪馬台国の女王・卑弥呼の墓との説がある箸墓（はしか）古墳があり、市商工会女性部の出資を受け、店長の林干鶴子さん（93）が町を盛り上げようと始めた。「働くことが元氣のもと」と断言する林さん。店を訪ね、そのパワフルさにふれた。

■ 元気印のお年寄り

JR・近鉄桜井駅前で、真っ赤なれんの「卑弥呼」の店はよく目立つ。店の名物は、しょうゆベースの素朴なタレが「甘すぎず辛すぎない」と評判のみたらし団子。もちもちした食感とさっぱりした味が好評だ。定番の五平餅も人気が高い。このほか、地元特産のそうめんなども並べられている。

店は午前9時半から、商品がなくなる夕方ごろまで営業。林さんは定休日の火曜以外は毎日出勤している。店で団子を焼く姿はてきぱきして力強いが、お客さんやスタッフと会話するときは、にこやかでやわらかい雰囲気だ。「働く場所があることがありがたい。店で訪れたお客さんと交流することが生活に張りを与えているという。

店では商工会女性部のメンバー13人も働いている。最年少は70歳、最高齢は93歳の林さん、と元気印のお年寄りたちで、店にきた観光客に桜井市内の名所を紹介することもある。

それぞれ自営業の経験があるため、店の切り盛りは慣れたものだ。会計担当の浦田文乃さん（85）は、「林さんは私たちがまねできないくらい頑張り屋。店にとってなくてはならない存在で、尊敬している」とほほ笑んだ。（10月16日産経新聞より一部抜粋）

うるわし通信第87号 令和3年9月

地域歴史学習会の取り組み

●桜井市からの情報発信（記紀万葉プロジェクト発足）

桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会が、オール桜井で最初に取り組んだテーマは桜井市が保管する万葉歌碑原書の活用でした。当協議会と奈良21世紀フォーラムが共同で実行委員会を立ち上げ、「桜井記紀万葉歌碑原書展～昭和の文人が愛した神奈の郷～」をあべのハルカス近鉄本店で開催（平成26年11月26～30日）し、大好評を得ました。翌年に飛鳥の県立万葉文化館で開催し、さらに28年度は地元桜井市立図書館で開催しました。うるわしの桜井をつくる会もプロジェクトの中心団体として積極的に取り組み、桜井の歴史を全国に発信しました。

●地域歴史学習会の取り組み

県立万葉文化館で開催した時、安倍小学校6年生を対象にした特別校外学習会を実施しました。講師は万葉文化館 小倉主任研究員さんによる「万葉集とは何か」をテーマに万葉仮名のルーツと変遷の話があり、クイズ方式の勉強会はわかりやすく好評でした。

桜井市には山の辺の道をはじめ、多くの神社仏閣、路傍には当時の池田栄三郎市長や文芸評論家保田重郎氏等の呼びかけで、川端康成氏をはじめ昭和を代表する文人墨客から揮毫をいただいた万葉歌碑64基も建立されています。これを機に小学校6年生の児童を対象に、学校の周りに残る貴重な文化遺産を子供たちの目で確認し、地域に誇りを持てる子供たちに育つことを願って「桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会」に「地域歴史学習会」を提案し、採択されました。

実施に当たっては教育委員会をはじめ、各小学校校長、桜井市観光ボランティアガイドの会の協力を得て、「万葉のふるさと桜井を愛する教育」の一助として、地元に残る貴重な文化遺産を自分たちの目で確認し、誇りを持てる子供たちに育っていただくことを願い、校外学習会に取り組んできました。第1回は平成28年1月29日（木）に安倍小学校で実施しました。その後桜井市立小学校11校に働きかけ、校外学習会と併せて万葉歌碑写真パネルも校内に展示し、一層の理解を含めることに努めています。（令和3年度まで連続実施中）

また令和元年度から中学校（4校）にも働きかけ万葉歌碑写真パネルを展示しています。子供たちによる桜井市からの情報発信を期待しています。

●今後の取り組み

桜井市教育大綱（第2期）では、めざす市民像として「郷土の文化遺産を愛護し、文化の発展に寄与する市民」を掲げ、その基本方針として「学校教育や生涯学習事業などとの連携を進め、郷土の文化遺産を愛護し、豊かな文化の創造に寄与する人材の育成を図ります」と規定しています。これまでの歴史学習会は、その具体的な取組みとして、今後とも一層の広がりを期待するものです。



武内殖業神社境内での学習風景

うるわし通信第90号 令和4年3月

土舞台顕彰50周年を迎えるにあたって（寄稿）

社会福祉法人飛鳥学院 院長 河村善一

50年前の昭和47年（1972年）11月4日、土舞台の碑の除幕式典が桜井市主催により執り行われました。私は現在54歳ですから記憶もありませんし、当然、出席もしていませんが、式典の様子を映したフィルムや写真や文献から、それがとても華やかで、アカデミックで、文化的で、芸術的な場面であったであろうと容易に想像できます。

昭和47年は高度成長期の末期にあたり、桜井市



50年前の土舞台顕彰除幕式 風景

も木材業、素麺業を中心に多くの産業が最盛期を迎え、今より資金の余裕があったでしょうが、ノーベル賞受賞者 朝永振一郎博士、芸能界より森繁久彌さん、仲谷昇さん、岡田真澄さん、名古屋章さん、赤木春恵さん、岸田今日子さんなど各界著名人をお迎えしての盛大な除幕式は、土舞台顕彰会のメンバーだけでなく、当時の池田栄三郎市長や保田重郎さん等たくさんの方々の大変なご尽力や情熱が無くては成しえ

なかったのではないのでしょうか。

土舞台の碑の除幕式の翌日である11月5日には、記紀・万葉歌碑の除幕式も行われており、桜井市を挙げての一連の祝賀ムードを誘引したのは、桜井市の大勢の方の郷土愛であり、芸能発祥地であることに象徴される文化的・芸術的な誇りであり、アカデミックであることの自負であり、故郷の発展を願う希望であったはずです。土舞台顕彰会はその時、保田重郎さんと姻戚関係にあった初代会長西垣榮一氏を中心に発足し、以来、2代目会長重坂眞一氏、3代目会長宮本貞昭氏、4代目会長河村喜太郎と歩みを止めることなく思いを引き継いできました。西垣会長から重坂会長にバトンタッチされた昭和50年には除幕式の祝賀ムードの流れのまま、第1回万葉まつりが開催されました。重坂会長には平成19年度まで約30年間会長を務めて頂き、主に「籌能」を開催されました。



うるわし通信第93号 令和4年9月

安倍山城跡



「安倍山城跡」をご存じでしょうか、桜井駅から南へ徒歩10分ほどの桜井公園として整備されている高台にあります。足利尊氏(室町幕府初代征夷大将軍)に仕えた北朝方の細川頼氏(ほそかわ あきうじ)が、南北朝時代の暦応4年(1341年)に南朝方の西阿(さいあ)が陣を構える戒重城を攻めるために築いた山城で所々に土塁跡が残存しています。

山頂からは桜井の市街が一望できはるかに著墓古墳も見え、確かに戒重城の動きを監視するには打ってつけの高台である。しかし、現在は遺構も無く写真のような建造物があるだけで、桜井市教育委員会の案内板によってようやく、この地が城址だったとわかる。



城址の南側には本紙93号で紹介した芸能発祥地の土舞台があり、11月5日の顕彰大祭50周年を迎えるにあたり、大規模な樹木伐採が行われ頼氏が眺めていた眺望が蘇りました、一度、古戦が行われた地を登城され大和の歴史の一巡を感じられては如何でしょうか。そして、この機会に遺構等の整備がされる事を切望しています。

(うるわしの桜井をつくる会 ひがし俊克)

うるわし通信第94号 令和4年11月

東日本大震災から12年目の春ーあの思い今もなおー

2011年3月下旬でした、宗教僧が桜井駅を行き交う人に何かを叫んでいました。私は県議会議員選挙を控えて市民に訴えていたのですが、耳を澄ますと、どうやら3月11日の原発事故のことで「寄付をお願いします」と言っていたことが印象に残っています。

私が部落差別を始めとした人権活動と桜井市の自然景観保護に取り組んで、県議会議員となり最初の活動が反原発でした。テレビニュースでは何かといえば原発事故です、私も団体を作って活動したいと思っていた頃、反原発に取組む市民の方から誘いが来ました。

初めてその集会の会議に行きますと、私にいきなり「事務局長を引き受けてくれ」と言われ、それから毎月1度の学習会と情報交換会に参加し、部落解放運動の『両側から超える』というスローガンを支えに、せっせと活動に励みました。また、県議会で超党派の反原発の奈良県議会議員連盟を立ち上げました。

議連では、青森から福井まで視察に行きました。福井の原発視察で印象なのは、関西電力と地元の地方自治体の元副町長が癒着をしていることを地元議員から聞き、地元議員が元副町長を批判するのは構わないが、それで部落解放同盟の印象を落としたら同盟員に申し訳ないと同盟を弁護したことや、その案内役に失礼ながら反論したことが思い出されます。

その後、桜井市では「脱原発桜井の会」会長浅川肇氏に代わって平等寺副住職の丸子氏が会長になってくれました。私は、彼の姿勢に惹かれるところ大であり、彼はよく桜井駅で署名とカンパを市民にお願いしておられますが、その回数には驚かされます。今も続けておられ、「根気よく頑張っているなあ」と感心しています。

街頭行動に参加して反対の意志を示すのは必要だと思います。「脱原発桜井の会」は、現在「エネルギーの今を考える会」として活動を継続されています。

市民の皆さんも、応援と協力をしていきましょう。 奈良県議会議員 和田 恵治



うるわし通信第96号 令和5年3月

奈良大和巡礼スタンプラリーをご存じですか？

奈良県中央部は、大和朝廷の建国以来、我が国の歴史発祥の地といわれ、古来より国中とも呼ばれてきました。この由緒ある大和の地に創建された奈良大和四寺一安倍文殊院、岡寺、長谷寺、室生寺一は、いずれも1200年以上の歴史を誇り、御本尊および中尊はすべて国宝・重要文化財に指定されています。

四寺はこうした貴重な文化財や、境内を埋め尽くす季節ごとの花々によって、訪れる人々の心を満たすことを願い、平成27年5月に「奈良大和四寺巡礼」の会を結成しています。

令和4年9月からは「奈良大和巡礼スタンプラリー」が始まっており、2つの楽しみ方があります。

①スタンプラリーの対象の四寺のほか奈良県万葉文化館、なら歴史芸術文化村の6か所を巡ると、記念品「四カ寺の霊木で作られたご祈禱済みの念珠」が頂けます。
②アプリの加盟店(桜井・橿原・宇陀・天理の各エリアで現在43施設)では、購入の有無にかかわらず、和菓子やそうめんなど地域の特産物が「おもてなし品」としてプレゼントされます。スタンプラリーには「デジタルアプリ版 (<https://nara-yamato.com/stampally/>)」と、「スタンプ帳版 (<https://nara-yamato.com/multilingual-stampally-japanese/>)」があり、詳しくは、それぞれのサイトをご覧ください。尚、奈良大和巡礼スタンプラリーは桜井市のふるさと納税の返礼品にも採用されています。

令和5年5月13日には俳優の加藤雅也氏による「奈良大和四寺巡礼写真展」が東京新橋の奈良まほろば館で開催され、安倍文殊院が紹介されます。

また現在、全国旅行支援である「いまなら。キャンペーン2023」が実施されているほか、昨年5月からはJR東海による「いざいざ奈良」キャンペーンが展開されており、俳優の鈴木亮平氏によるCMも好評のようです。

コロナ禍も落ち着きを見せる今、関東からの奈良への注目が集まっています。この機会に我が桜井市でもおもてなしの精神を発揮して盛り上げて行きましょう。



奈良大和巡礼スタンプラリー公式HPより



安倍文殊院公式ツイッターより

うるわしの桜井をつくる会事務局 新 元秀

うるわし通信第97号 令和5年5月

令和5年度 市民フォーラム

7月15日(土)に市立図書館で4年ぶりの市民フォーラムが開催され、市民約400人が集まった。松井市長より本市の各種政策の取組状況の説明があり、その主なものは次の通りであった。

- ①昨年11月にグランドオープンを迎えた新庁舎や地域交流広場の紹介
- ②桜井市一般会計決算の推移と財政状況の説明
- ③奈良県とのまちづくりに関する連携協定による市内5カ所のまちづくりの進捗状況

桜井市の課題と必要な取組について

- ⑦財政を圧迫しているごみ処理施設の改良事業
- ⑧認定こども園設置による幼保一元化の取組と保育料の負担軽減策
- ⑨少子化に伴う小中学校のあり方の見直しと給食費の負担軽減の検討
- ⑩国民の4人に1人が75歳以上の高齢者となる「2025年問題」の超高齢社会に対応する施策
- ⑪複雑化する課題に対応するための平成6年度からの「重層的な支援体制」の整備など『誰一人取り残さない、誰もが安心して暮らせる桜井市を創りあげていきたい』と提起された。



図書館第1研修室

その後、参加者からの意見発表として3名からの提起がおこなわれた。本会理事の楠木氏より「桜井市のパブリックコメント制度の活性化に向けて」、市よりの制度の積極的な広報活動による市民参加の働きかけ、「回答が紋切り型にならないよう」な対応の工夫、そして市民から寄せられた「意見と市の回答を保存するホルダーの設置要望」がおこなわれた。他の意見発表として、三輪そうめんのブランド化とそうめん街道づくりの要望などが出された。

筆者は、会場への参加者は限られた人数なので、参加出来なかった人の為に見逃し配信がされれば便利だと考える。また、以前同様に市町村長が実施する他市の市政報告会に参加したことがあり、受付で参加票に住所と氏名を記入する時に「〇〇市民ではなく桜井市民ですが」と告げると、「大丈夫です、本市他市を問わずにご参加いただいています」と即座に答えてもらい、大変感激したことを今回の市民フォーラムに参加して思い出した。

うるわしの桜井をつくる会理事 ひがし俊克

うるわし通信第99号 令和5年9月

うるわしの桜井をつくる会12年の歩み

平成22年3月14日に発足し、おかげさまで12周年を迎えるにあたり、過去の記録をまとめてみました、当時の思い出を振り返っていただけたら幸いです。



平成23年6月12日 うるわしの桜井をつくる会第1回定時総会
公開シンポジウム「三輪山の風景街道をつくる」



平成23年9月10日
『三輪山の風景街道をつくる』発行



平成25年1月26日 新春交流昼食会
あるぼ〜る



平成26年11月26日 桜井記紀万葉歌碑原書展
大阪あべの ハルカス



平成29年5月12日 講演会「子どもの貧困にどう取り組むか」
講師 梅野正和 氏(奈良県子ども家庭課 家庭福祉係長)



平成30年6月10日 第8回定時総会
講演会「桜井に宮をおいた天皇」
講師 千田稔 氏(奈良県立図書館館長)



平成31年2月23日 第2回卑弥呼の里芸術祭
障害のある人もない人も ともに in SAKURAI



令和2年1月25日 第9回新春交流昼食会
ソプラノ歌手梅谷裕子さんと桜井市歌を合唱

【編集後記】 「通信」が100号を迎える。57号から編集子を受け継いで7年間担当し、紙面を通じて多方面の方々とつながりを持つこととなった。桜井が抱える諸課題について意見交換をしてきて、桜井の地域課題の解決のために、もっと女性の意見の反映や、女性の参画が強く求められる。これまでの「通信」で、どれだけそれを伝えてきたのかと反省させられる。101号以降は、その様な編集を進め、新しい「うるわしの桜井」をめざしたい。(編集子K)

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL: 090-3652-8104